

# 水産業普及指導員活動情報

平成30年1月18日

活動内容：八代海湾奥におけるマガキ養殖の生残状況調査指導について

担当部署：県南広域本部水産課（担当者：生嶋登、吉川真季）

## 1 背景

県南地域では、鏡町漁協が、平成25年からマガキ養殖を本格的に始めたことを機に、他の地域でもマガキ養殖が始められた。昨年度の県南地区では、5漁協がマガキ養殖を行い、約43トンを出荷・販売した。県南広域本部水産課（以下、水産課）は、県南地区の水産業の柱となりつつあるマガキ養殖の推進を図るため、生産者によるマガキの生残状況調査を指導し、養殖技術の向上や販売・経営計画の検討を推進している。

## 2 内容

水産課は、昨年10月31日に、マガキ生産者、津奈木漁協、津奈木町、水俣芦北雇用創造協議会と協力して、生残状況調査を実施した。（図1）その結果、平成29年産の生残率<sup>※</sup>は、25.1～63.8%と地区により差が見られた。現存量は約1.6トンと推定された。また、サイズについても、今後出荷できる可能性が低い極小サイズが全体の60%を占め悪かった。その要因としては、挟み込みから本養殖への移行が5月と遅かったことが考えられる。



図1 津奈木漁協での生残状況調査

芦北地区の生残状況調査は、昨年11月7日に、マガキ生産者、芦北町漁協、芦北町、水俣芦北雇用創造協議会と協力して実施した。（図2）その結果、平成29年産の生残率は、32.8～34.4%と八代海湾奥部より高かった。現存量は約5.1トンと推定された。また、サイズについては、津奈木地区より良かったが、本養殖への移行時期は、津奈木地区と同じ5月であった。今後、成長を重視した養殖方法へ移行するため、種ガキの導入時期や沖出し時期について検討する。



図2 芦北町漁協での生残状況調査

※ 生残率：調査時点での生残貝と死殻の合計数量に対する生残貝の比率。

## 3 今後の計画

水産課は、県南地区でマガキ養殖を行う漁協に対し、生残状況調査の重要性を説明し、調査の実施を指導する。

【発信元】 熊本県水産研究センター企画情報室（TEL：0964-56-5112）